

岡山県感染症週報 2018年 第43週 (10月22日～10月28日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2018年 第43週 (10/22～10/28) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第41週 5類感染症 ウイルス性肝炎 1名(40代 男)
 後天性免疫不全症候群 1名(20代 男)
 侵襲性肺炎球菌感染症 1名(乳児 男)
 梅毒 2名(50代 男 1名・女 1名)
 風しん 1名(30代 男)
- 第42週 4類感染症 レジオネラ症 1名(60代 男)
 5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名(70代 女)
 侵襲性肺炎球菌感染症 1名(80代 男)
 梅毒 1名(20代 女)
- 第43週 2類感染症 結核 1名(小学生 男)
 3類感染症 細菌性赤痢 1名(60代 男)
 腸管出血性大腸菌感染症 2名(O111:80代 女 1名、O157:20代 男 1名)
 4類感染症 レジオネラ症 2名(50代 女 1名、80代 男 1名)
 5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名(70代 男)
 侵襲性肺炎球菌感染症 1名(50代 女)
 百日咳 5名(幼児 女 1名、小学生 男 1名、中学生 女 2名、
 30代 女 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

○流行性角結膜炎は、県全体で11名(定点あたり1.33→0.92人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。

1. [風しん](#)は、2018年第43週までで14名の報告がありました。風しんは、妊婦がり患すると、出生児に先天性風しん症候群を発症することがあり、注意が必要です。また、成人で発症した場合、小児より重症化することがあります。全国の発生状況など詳しくは、[今週の注目感染症](#)をご覧ください。
2. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、2018年第43週までの累計報告数は61名です。今後も発生がづく可能性があることから、岡山県は「[腸管出血性大腸菌感染症注意報](#)」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。
3. [梅毒](#)は、第43週までで140名の報告がありました。梅毒患者の報告数が急増した昨年の同時期(146名)と同程度の多くの患者が報告されています。中でも、若年層の患者の報告が多く、特に10代および20代の女性患者の増加に注意が必要な状況です。また、全国では先天梅毒の報告が相次いでいます(第42週までで昨年5名、今年14名)。梅毒の詳細は、[コラム](#)をご覧ください。

◆◆お知らせ◆◆

インフルエンザの流行が懸念される時期になりました。次週(第44週)から、岡山県感染症週報及び岡山県感染症情報センターホームページに『インフルエンザ情報』の掲載を開始します。

『インフルエンザ情報』では、「[地区別発生状況](#)」「[ウイルス検出状況](#)」「[学校等の臨時休業施設数](#)」「[入院サーベイランス](#)」など、県内の発生状況をお知らせします。

また、岡山県感染症情報メールマガジンでは、発生状況の概要を掲載するとともに、インフルエンザ注意報・警報発令時には臨時号を発行し、より早く情報をお届けします。『インフルエンザ情報』をインフルエンザの予防と感染拡大防止にお役立てください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★★	RSウイルス感染症	➡	★★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★★
感染性胃腸炎	➡	★★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★★	伝染性紅斑	➡	★
突発性発疹	➡	★	ヘルパンギーナ	➡	★★
流行性耳下腺炎	➡	★	急性出血性結膜炎	➡	
流行性角結膜炎	➡	★	細菌性髄膜炎	➡	★
無菌性髄膜炎	➡	★	マイコプラズマ肺炎	➡	
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	

【記号の説明】 前週からの推移： ：大幅な増加
：増加
：ほぼ増減なし
：減少
：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減
 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

★風しん

●風しんとは

風しんは、発熱、発しん、リンパ節腫脹を特徴とするウイルスによる急性の発しん性感染症です。感染経路は飛沫感染で、ヒトからヒトに伝播します。特に妊婦が罹患すると、出生児に先天性風しん症候群を発症することがあり、社会的に注目される疾患です。

●症状

感染から14～21日後に発熱、発しん、リンパ節腫脹が出現します（発熱は風しん患者の約半数）。症状は不顕性感染（15～30%程度）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。

●発生状況

風しん患者報告数は、首都圏を中心に急増していましたが、現在では全国に感染が拡大しつつあります（第42週まで：1,486名、第43週まで（速報値）：1,692名。直近3年間では年間93～163名）。中国地方では、第43週まで（速報値）で広島県：20名、岡山県：14名、山口県：5名などが報告されています。

また、この度報告数が増加した風しん患者は、男性が女性の5倍程度と多くを占めており、中でも特に抗体価が低いとされる、30代～40代の男性が中心となっています（男性患者全体の約6割）。

●先天性風しん症候群とは

妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に先天性風しん症候群と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状ですが、それ以外にも、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅延、知的障がい、小眼球など多岐にわたる症状を呈することがあります。

●風しんはワクチンで予防できます！

予防接種が唯一の有効な予防手段です。

予防接種、抗体検査についてはコラムをご覧ください。⇒コラム「風しんの予防について」



©岡山県「ももっち・うらっち」

風しんの予防について

岡山県で風しん患者が発生しています！

●風しんはワクチンで予防できます！

妊婦を守る観点から、妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去に予防接種を受けていない方や風しんのり患が明らかでない方などは、予防接種についてご検討ください。

また、30代～50代の男性で、風しんのり患や予防接種が明らかでない方も、合わせてご検討ください。

なお、妊娠中の女性は予防接種を受けることができないため、特に流行地域においては、抗体を持たない、または抗体価の低い妊婦は、可能な限り人混みを避け、不要不急の外出を控えましょう。

風しん抗体検査(無料)を受けましょう！

先天性風しん症候群の予防を目的として、岡山県では**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。

検査の詳細は、下記のホームページ

[風しんの無料抗体検査が受けられます\(岡山県健康推進課\)](#)

[風しんの無料抗体検査\(岡山市\)](#)

[風しん抗体検査について\(倉敷市\)](#)

をご覧ください。

生まれてくる赤ちゃんのために
風しん抗体検査を受けましょう

岡山県(岡山市・倉敷市以外)・岡山市・倉敷市では、風しん抗体検査を**無料**で実施しています。

妊婦症候群の妊婦さんが風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんに先天性風しん症候群が生まれることがあります。風しんは予防接種で予防できます。

無料抗体検査対象者で、罹患歴又は予防接種歴が明らかでない方は、予防接種が必要かどうかを調べるため、抗体検査を受けましょう。

特に、昭和37年～半成元年生まれの男性と昭和34年度～平成元年生まれの女性は、十分な免疫がないことが多いとされています。

実施医療機関のリスト

岡山県内に在住し、次のいずれかに該当する方
(1) 妊婦を希望する女性とその同居者
(2) 風しんの抗体価が低い妊婦の同居者

※1歳未満の方、妊娠16週以内の方には実施できません。また、風しんの抗体検査を受ける方は、検査を受ける前日まで風しんに感染していないことが確認されています。

検査するもの
(1) 住居がわかるとの書類(健康保険証、運転免許証など)
(2) 「風しん抗体検査(風しんの抗体検査)」は、妊婦の風しんの抗体価が確認できる書類(抗体検査結果通知、妊婦検診結果記録簿など)

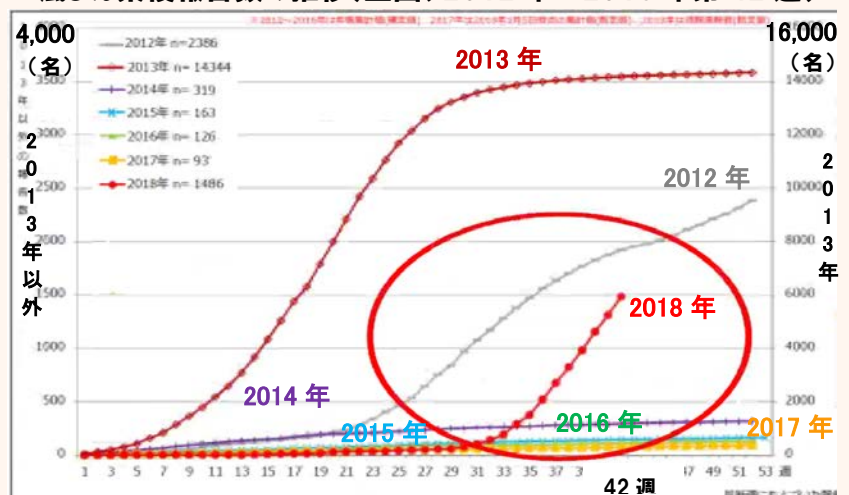
※費用である医療機関については、詳しくは各医療機関のホームページをご覧ください。

岡山市・倉敷市以外に在住の方	風しんの無料抗体検査	無料
岡山市・倉敷市に在住の方	風しんの無料抗体検査	無料
岡山市・倉敷市に在住の方	風しんの無料抗体検査	無料
岡山市・倉敷市に在住の方	風しんの無料抗体検査	無料

風しんは予防接種で予防できます。妊婦症候群の妊婦さんが風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんに先天性風しん症候群が生まれることがあります。風しんは予防接種で予防できます。

岡山県健康推進課 086-226-7331

風しん累積報告数の推移(全国、2012年～2018年第42週)



(国立感染症研究所ホームページより)

詳細は・・・

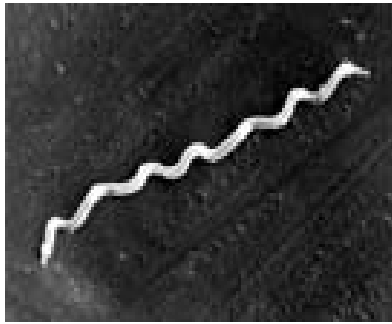


[風疹急増に関する緊急情報\(2018\)\(国立感染症研究所\)](#)

[風疹とは\(国立感染症研究所\)](#)

[風しんについて\(厚生労働省\)](#)

生まれてくる赤ちゃんのために
風しん抗体検査を受けましょう
(岡山県健康推進課)



依然として増えている・・・

梅毒（性感染症）に 気をつけましょう！

梅毒スピロヘータの電子顕微鏡写真
(国立感染症研究所 HP より)

●岡山県で梅毒の患者が急増しています

昨年、岡山県では梅毒患者の報告数が急増しましたが、今年も同様に多くの患者が報告されています（第43週まで：昨年146名⇒今年140名）。

中でも、若年層の患者の報告が多く、特に10代・20代の女性患者の増加に注意が必要な状況です。

岡山県は全国的にも届出が多く、2018年7月から9月でみると、人口100万人あたりの届出が、東京都、大阪府に次ぎ全国3位（2018年4月から6月と同様）となっています。全国的にも患者は近年増加傾向を示しており、若年者を中心としたまん延が懸念されています（第42週まで：昨年4,568名⇒今年5,532名）。

●「梅毒」とは

梅毒スピロヘータによっておこる、性感染症として重要な疾患です。早期には皮膚、粘膜に病変をきたします（早期顕症梅毒）。一方症状の見られない時期もあり（無症候）、多様な症状を示すのが特徴です。進行により心血管系や、脳・脊髄の実質、髄膜などの神経系臓器など全身臓器に感染がおよび、大きな障害をもたらします（晩期顕症梅毒）。また妊婦の感染では胎児に様々な障害をきたします（先天梅毒）。

●男女とも早期で見つかることが多いですが、女性では無症候も多くみられます！

また、全国では先天梅毒の発生報告が相次いでいます！

（第42週まで：昨年5名⇒今年14名）

●梅毒以外にも注意すべき性感染症はあります

性行為を通じ感染する感染症は梅毒以外にも、例えばHIV、クラミジア、ヘルペス、淋病など多くあります。これらの感染症を防ぐためにセーフセックスを意識するとともに、心当たりがある場合には医療機関の早期受診を心がけましょう。

岡山県の保健所・支所では梅毒等の性感染症検査を無料・匿名で受けることができます！

*岡山県の保健所（岡山市・倉敷市を除く）では、梅毒以外にもHIV・性器クラミジア・B型肝炎・C型肝炎の検査も同時に受けることができます。

*検査は無料・匿名で受けることができます。

*通常検査では1週間後、迅速検査では1時間後に結果をお知らせしています。

*確実な検査結果を得るためには、感染機会のあった日から、3か月たって検査することをおすすめします。

*事前に電話で予約が必要です（保健所によっては予約不要の日時もあります）。

○県内11か所の保健所・支所における性感染症等検査の日時、予約方法はこちらから

→ [【平成30年度 保健所におけるHIV検査・性感染症検査・肝炎検査日時】](#)

[日本の梅毒症例の動向について（国立感染症研究所）](#)

[ストップ！梅毒（日本性感染症学会）](#)

保健所別報告患者数 2018年 43週(定点把握)

(2018/10/22~2018/10/28)

2018年11月1日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	13	0.15	-	-	-	-	5	0.33	2	0.17	1	0.17	-	-	5	0.50
RSウイルス感染症	29	0.54	11	0.79	9	0.82	-	-	1	0.14	1	0.25	2	1.00	5	0.83
咽頭結膜熱	15	0.28	3	0.21	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	10	1.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	58	1.07	27	1.93	14	1.27	6	0.60	3	0.43	-	-	1	0.50	7	1.17
感染性胃腸炎	213	3.94	70	5.00	36	3.27	53	5.30	12	1.71	21	5.25	2	1.00	19	3.17
水痘	19	0.35	5	0.36	3	0.27	1	0.10	1	0.14	1	0.25	4	2.00	4	0.67
手足口病	22	0.41	4	0.29	3	0.27	3	0.30	-	-	5	1.25	2	1.00	5	0.83
伝染性紅斑	4	0.07	-	-	3	0.27	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	19	0.35	8	0.57	3	0.27	1	0.10	2	0.29	2	0.50	-	-	3	0.50
ヘルパンギーナ	16	0.30	9	0.64	3	0.27	-	-	-	-	-	-	1	0.50	3	0.50
流行性耳下腺炎	7	0.13	4	0.29	1	0.09	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	11	0.92	1	0.20	5	1.25	4	4.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2018年 43週(発生レベル設定疾患) (2018/10/22~2018/10/28)

2018年11月1日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	13	0.15	-	-	-	-	5	0.33	2	0.17	1	0.17	-	-	5	0.50
咽頭結膜熱	15	0.28	3	0.21	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	10	1.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	58	1.07	27	1.93	14	1.27	6	0.60	3	0.43	-	-	1	0.50	7	1.17
感染性胃腸炎	213	3.94	70	5.00	36	3.27	53	5.30	12	1.71	21	5.25	2	1.00	19	3.17
水痘	19	0.35	5	0.36	3	0.27	1	0.10	1	0.14	1	0.25	4	2.00	4	0.67
手足口病	22	0.41	4	0.29	3	0.27	3	0.30	-	-	5	1.25	2	1.00	5	0.83
伝染性紅斑	4	0.07	-	-	3	0.27	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	16	0.30	9	0.64	3	0.27	-	-	-	-	-	-	1	0.50	3	0.50
流行性耳下腺炎	7	0.13	4	0.29	1	0.09	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	11	0.92	1	0.20	5	1.25	4	4.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染区症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2018年 第43週 2018/10/22～2018/10/28)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	13	-	2	-	2	-	-	-	1	-	1	-	2	-	1	1	-	2	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	29	12	4	10	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	15	-	4	6	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	58	-	-	-	3	6	12	8	7	8	7	1	4	-	2
感染性胃腸炎	213	3	15	37	17	19	20	14	13	8	11	8	12	7	29
水痘	19	-	2	2	2	1	2	4	-	2	-	1	3	-	-
手足口病	22	-	1	5	4	5	2	2	-	-	-	1	1	-	1
伝染性紅斑	4	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-
突発性発疹	19	-	9	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	16	-	2	4	8	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	7	-	-	-	-	-	1	2	1	1	-	1	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	11	-	1	1	-	3	-	-	1	-	-	-	1	-	1	1	1	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

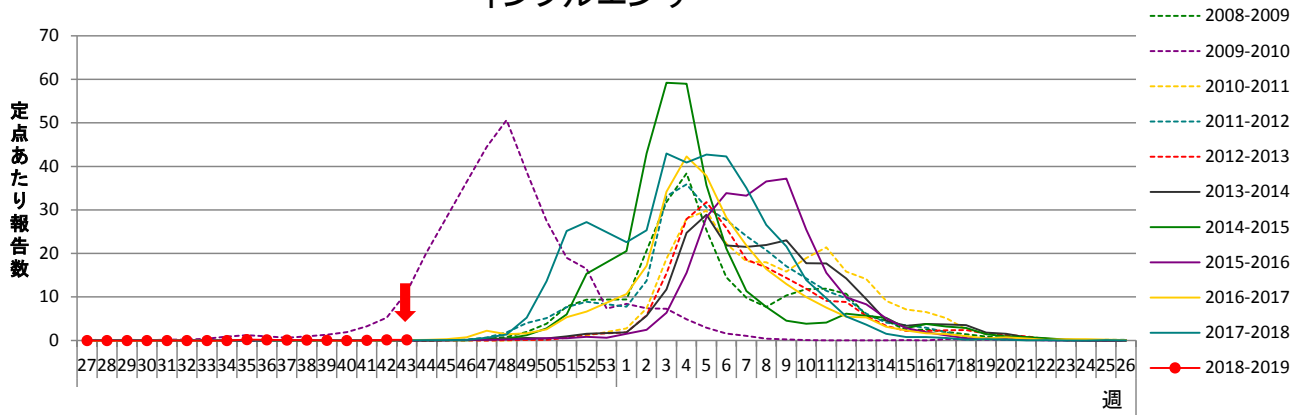
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

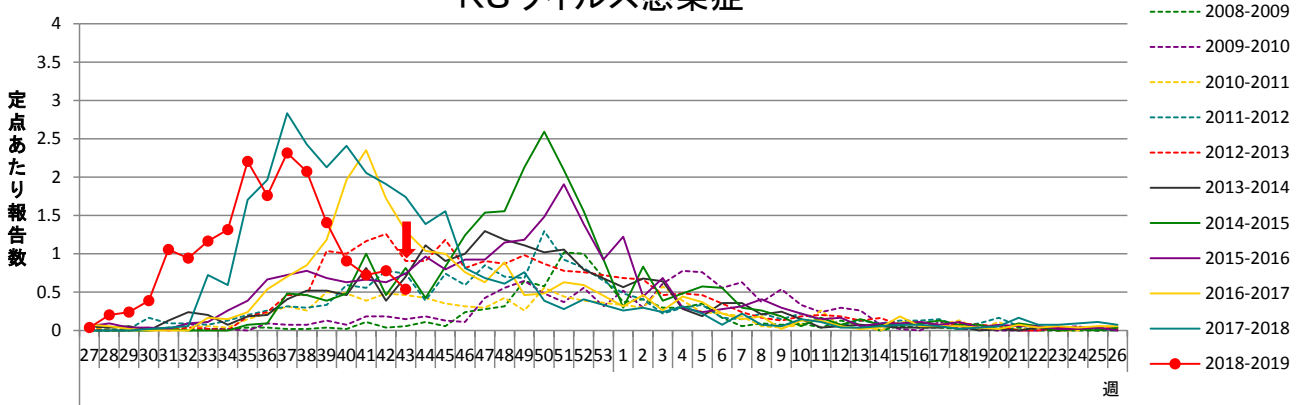
2018年 43週

分類	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	260	370	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	2	細菌性赤痢	1	16	3	腸管出血性大腸菌感染症	2	61	70
	腸チフス	-	1	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	5	5
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサナル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	2	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	2	1
	デング熱	-	-	2	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	5	7
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	1	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	2	69	30
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	15	22	ウイルス性肝炎	-	5	12	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	21
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	2	-	急性脳炎	-	6	8	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	2	3	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	13	9	後天性免疫不全症候群	-	15	22
ジアルジア症		-	1	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	-
侵襲性肺炎球菌感染症		1	39	36	水痘(入院例に限る。)	-	3	6	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		-	140	172	播種性クリプトコックス症	-	2	1	破傷風	-	2	-
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	7	百日咳	5	144	-
風しん		-	14	-	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

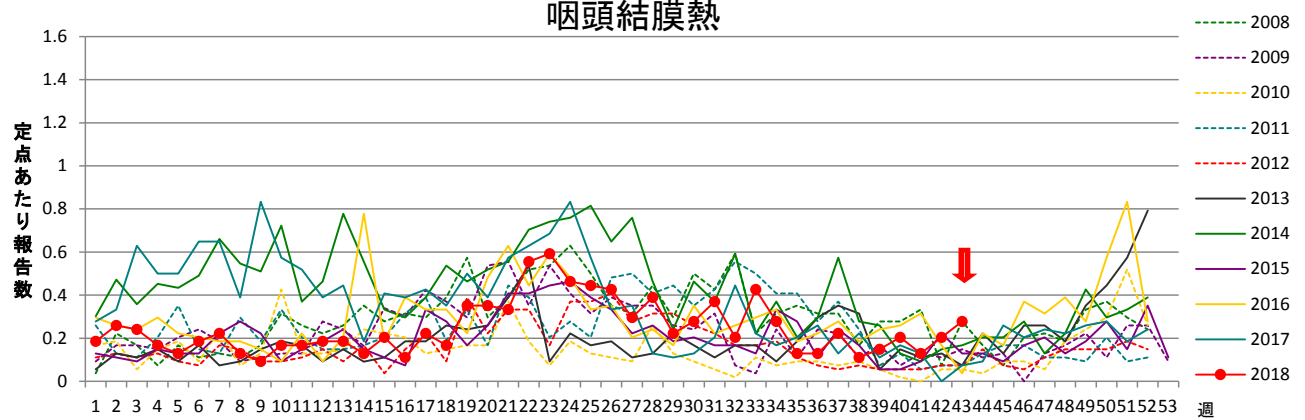
インフルエンザ



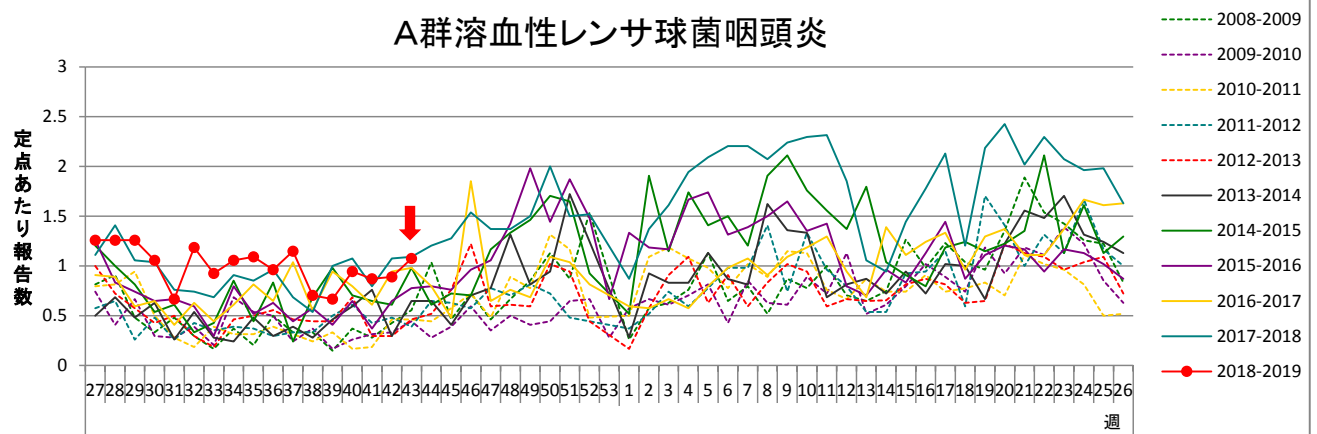
RSウイルス感染症



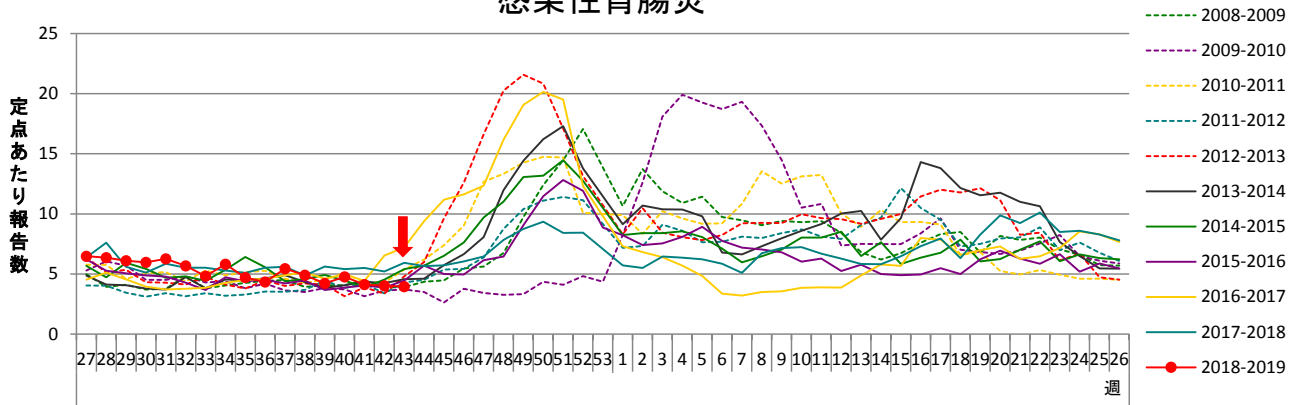
咽頭結膜熱



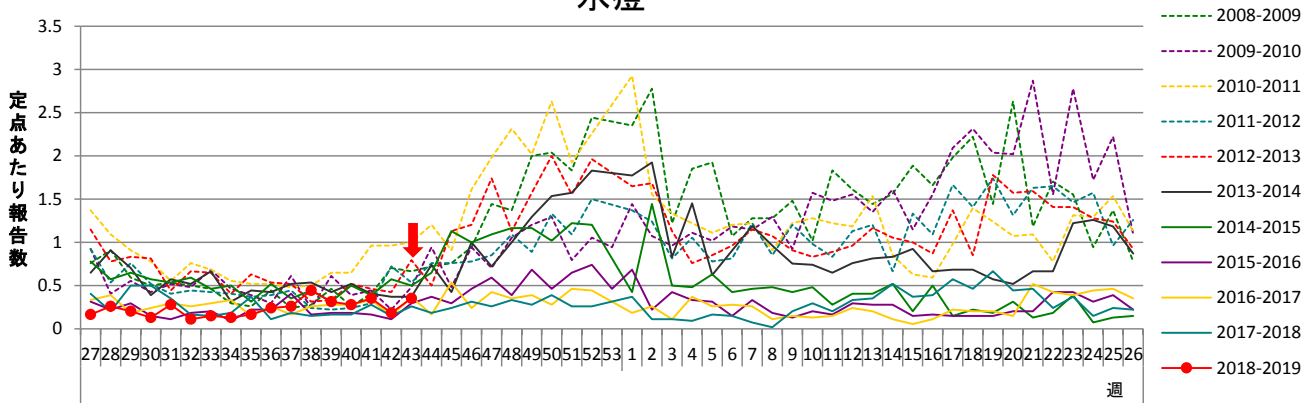
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



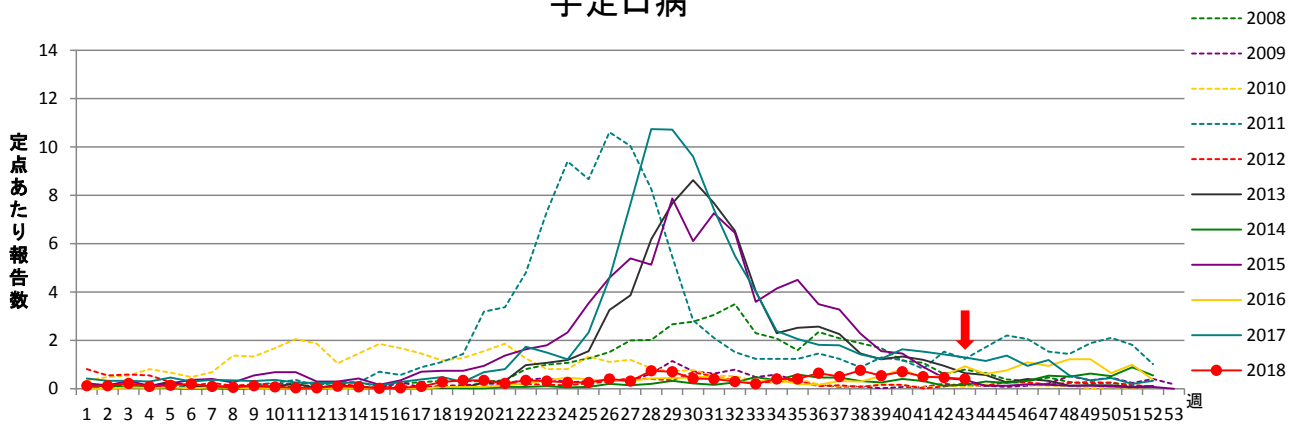
感染性胃腸炎



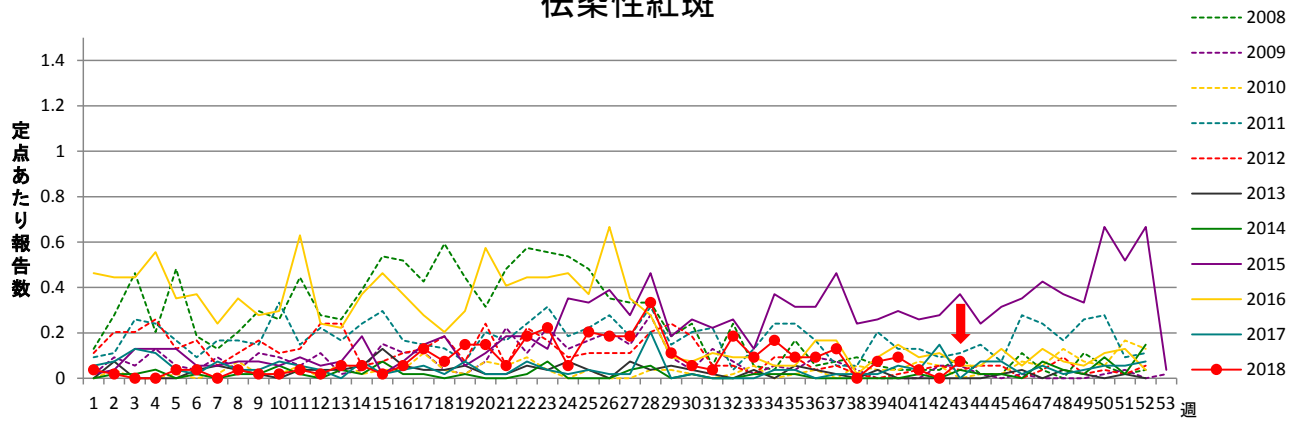
水痘



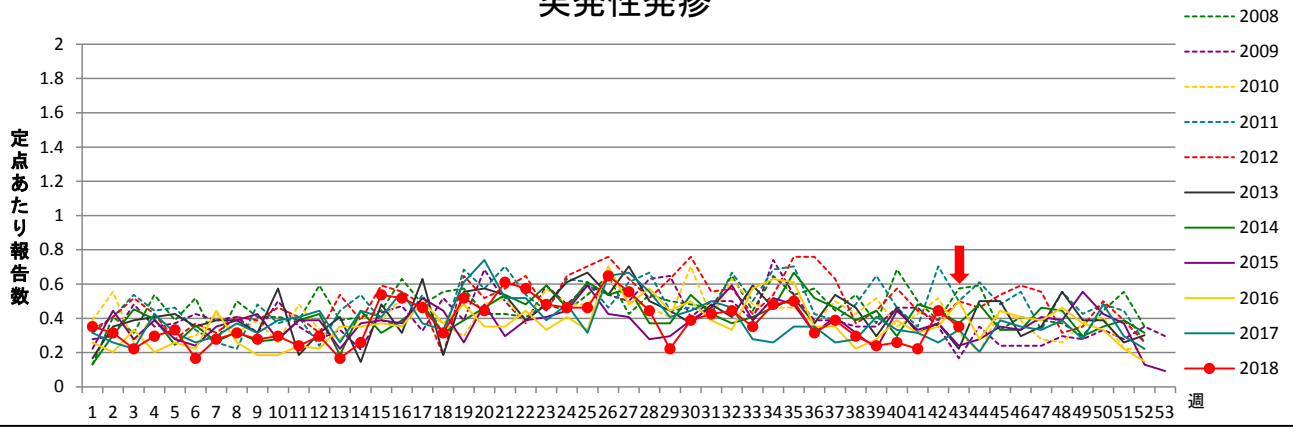
手足口病



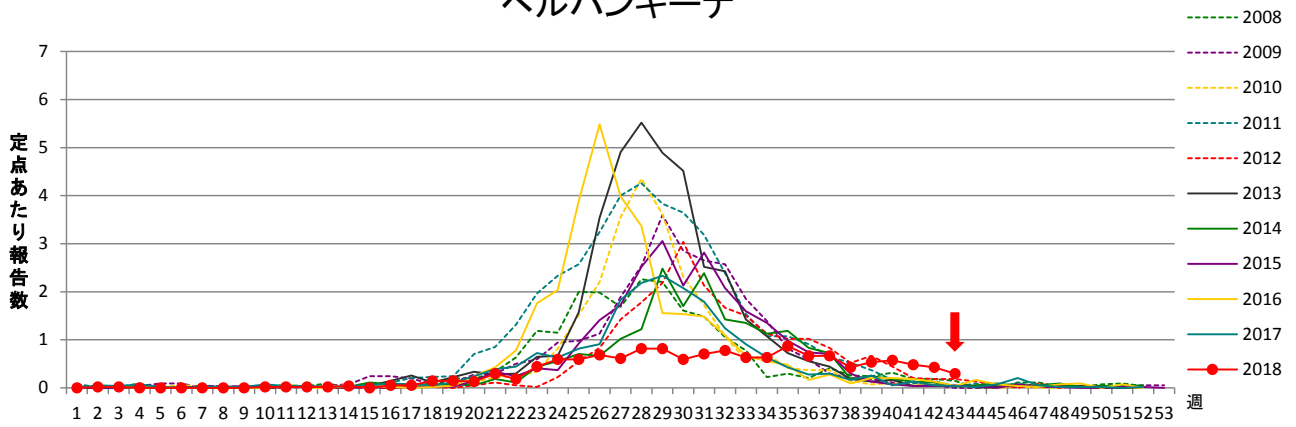
伝染性紅斑



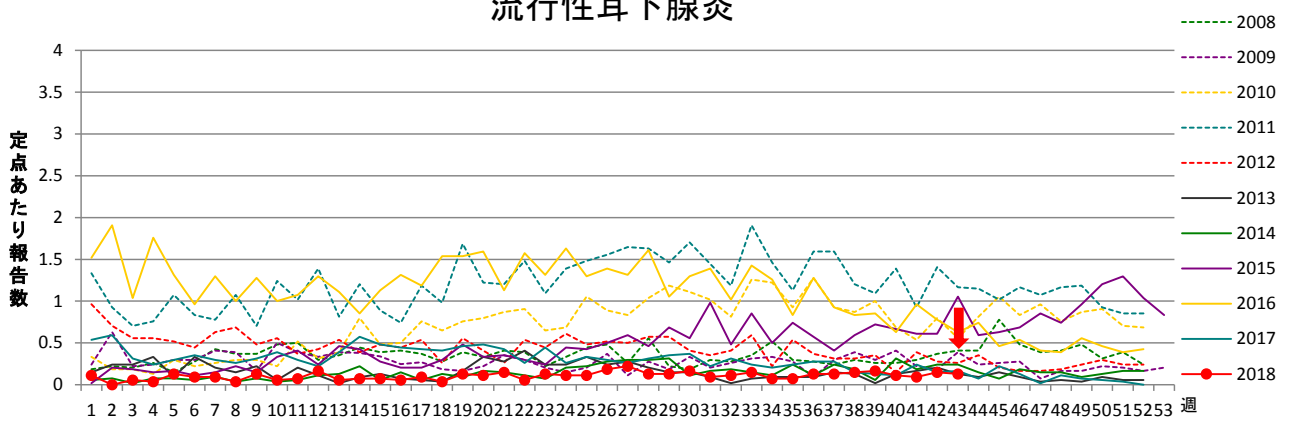
突発性発疹



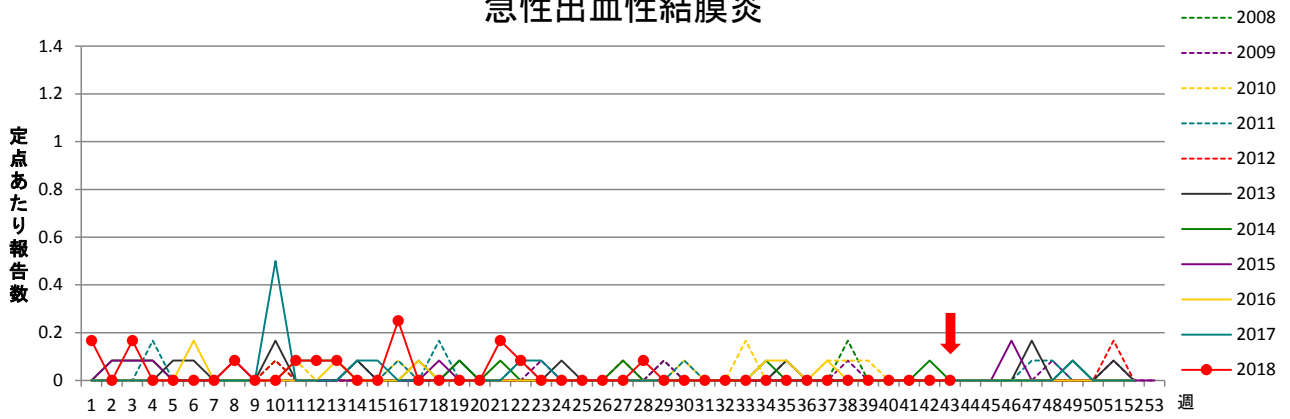
ヘルパンギーナ



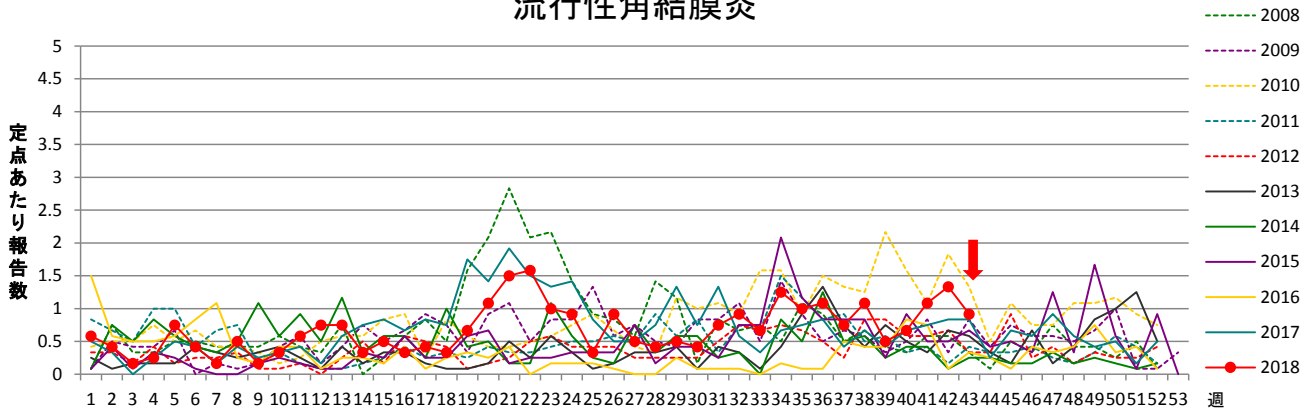
流行性耳下腺炎



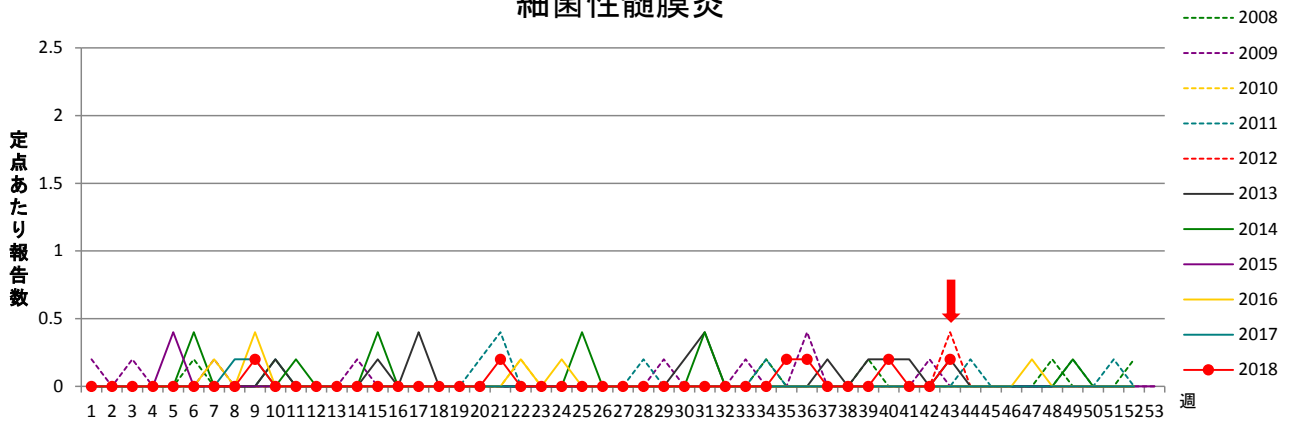
急性出血性結膜炎



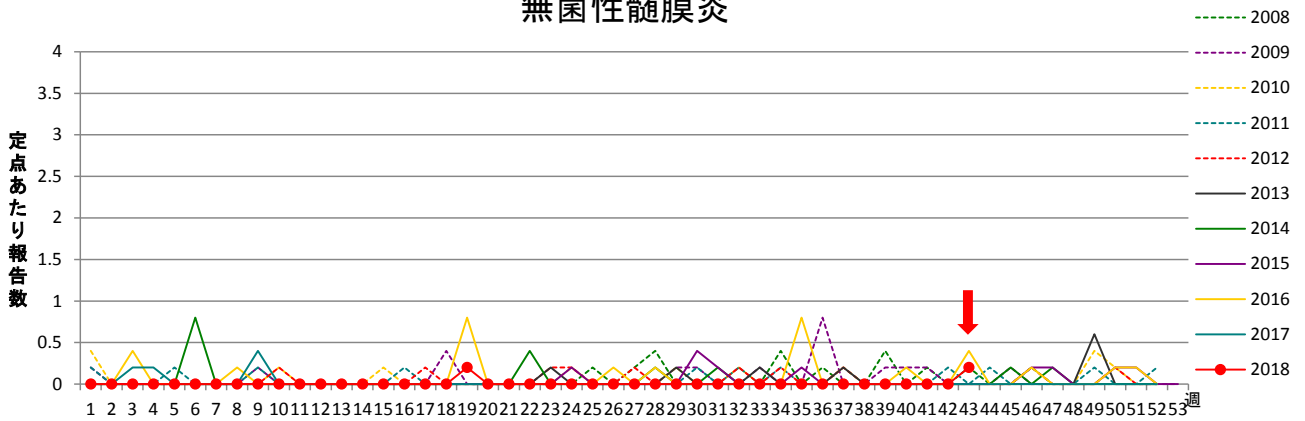
流行性角結膜炎



細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎

